

# CFP共通ルール 策定ガイド

2026年3月  
環境省



# CFP算定・表示ルールの共通化と本書の位置づけ

## CFP算定・表示ルールの共通化と本書の位置づけ

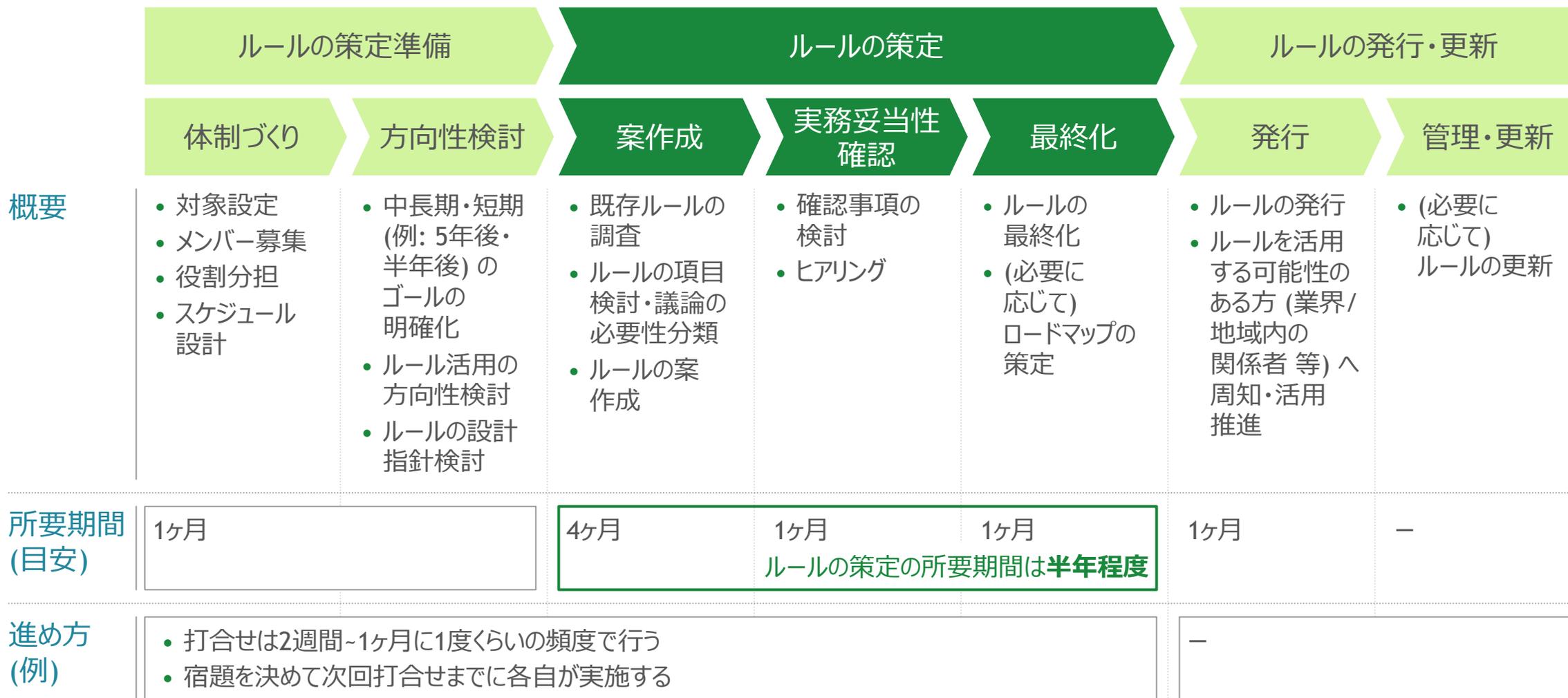
- 消費者が脱炭素製品を選択できる社会の実現にあたり、製品・サービスのカーボンフットプリント (CFP: Carbon Footprint of Product) の普及が必要です
- 一方で、企業が単独でCFPの算定・表示を進めようとしても、どのように進めてよいか迷い、停滞することがあります
  - CFPガイドラインでは、一般的な指針が記載されていますが、実際の算定や表示では、業界特有の事項等で悩むことがあります
  - そこで、悩みがちな部分を整理し、算定・表示を促進するための共通ルールが役立ちます
- 本ガイドは、複数の組織が連携し、業界や地域内で共通のCFP算定・表示ルールを策定する際のステップやポイントを解説します
  - 本ガイドのステップや実施事項は一例ですので、必要に応じてアレンジいただいても構いません

## 目次

- ルール策定ステップの全体像
- ルールの策定準備
- ルールの策定
- ルールの発行



# ルール策定ステップの全体像



# ルールの策定に入る前に、共通ルールをつくる体制を確立する

## 体制づくり

### ルールの対象設定

### 策定メンバー募集

### 役割分担

### スケジュール・打合せ設計

#### 検討事項



- 何の製品に関する共通ルールをつくるか
- 策定するルールの対象は  
①算定 ②表示 ③算定と表示の両方のどれか



- 策定メンバーは誰にするか
- 策定メンバーをどのように募るか
  - CFP算定・表示の経験者がいると良い



- 役割分担をどうするか
- ルールの最終化プロセスは  
どうするか



- どのくらいの期間でルールを策定するか
- どのくらいの頻度で打合せをするか
  - 形式はどうか



**例**  
(記載は文具業界ルール策定の場合。但し、地域の共通ルール策定の場合も同様)



- 文具類全般のルールをつくる
- 算定と表示の両方のルールをつくる

- 業界団体内の企業等のうち、サステナビリティ委員会に属している企業等とする
- 業界団体を通じて参加を呼びかける

#### 役割決めが重要

- 役割は以下とする
  - リーダー
  - 会議設定担当
  - 既存ルール調査担当
  - ルール執筆担当
  - 公表・周知会担当
- 関連企業等にも意見を募り、ルールを最終化する

- 半年かけてルールをつくる
- 2週間に1度集まって議論する
  - オンラインと対面で行う

# 目指すゴールを明確化し、ルール活用の方向性と設計指針を検討する

必須 任意

## 方向性検討

### 5年後のゴールの検討

### 半年後のゴールの明確化

### ルール活用の方向性検討

### ルールの設計指針検討

#### 目的



- 参加者間で、CFPをどのように活用していきたいのか、中長期と短期の認識をあわせる

- 発行するルールをどのように活用するか認識をあわせる

- 左記で検討した活用をするにあたって必要な設計指針を明らかにする

#### 検討事項



- 5年後、ルール策定業界や地域で、どのようにCFPが活用されているとよいか

- 発行時(半年後)、ルール策定業界や地域が、どのようにCFP算定・表示に向き合えるとよいか

- ルールの読み手は誰か
- ルールに沿って算定・表示されるCFPはどのような目的で使われるか

- ルールの方向性を踏まえ、満たすべき設計指針は何か

#### 例



- CFPの削減に取り組む企業等が増え、その取組が評価されるようになっている

- 中小企業も含めてCFPの算定を行おうと思える
- 次ステップとして業界、地域共通のCFPラベルを作ることができる

- 読み手はCFP初心者も想定
- 目的は削減の見える化
  - 他にはホットスポット把握、顧客からの依頼への対応、ブランディング等

- CFP初心者でもわかる
  - 他には現実性がある、無料で使える、必要に応じて更新できる等

# 既存ルール等を参考に、ルール項目の設定を行う

他、こちらに記載がないルールを参照してもよい

## 案作成

## 既存ルール等の調査

## ルールの項目検討

### 実施事項

既存ルール等の調査をする

#### 調査例



- どのような項目が入っているか?
- 今回策定するルールではどの内容を参考にするか?

	対象	ルール		URL	(参考) CFPの基本的なルール
		算定	表示		
業界	化粧品	✓		環境省 (製品CFPの算定・表示ルール)	CFP ガイドライン <sup>1</sup> (経済産業省・環境省)  ISO14067:2018に 整合しつつ、CFP 算定等に取り組む ための考え方や算定 方法を解説したガイド
	プラスチック包装容器	✓			
	文具・事務用品	✓	✓		
	履物	✓	✓		
	段ボール及び段ボール箱	✓		経済 産業省 (製品別 算定 ルール)	CFP表示 ガイド <sup>2</sup> (環境省・ 経済 産業省)  CFPの表示方法と 算定に関わる情報の 提供に関する考え方を 示したガイド
	生コンクリート及び プレキャストコンクリート	✓			
	コピー用紙及び印刷用紙	✓			
	オフィス家具	✓			
	ソフトウェア	✓			ISO14067: 2018 <sup>3</sup> 製品のカーボンフット プリントの定量化の 要求事項及び指針 を示した国際規格
地域	SAGA COLLECTIVEの 製品	✓	✓	環境省 (同上)	

既存ルール等を参考に、  
策定するルールの  
項目案を作成する

1. カーボンフットプリント ガイドライン; 2. カーボンフットプリント 表示ガイド; 3. ISO 14067:2018 Greenhouse gases – Carbon footprint of products – Requirements and guidelines for quantification  
出所: 環境省「グリーン・バリューチェーンプラットフォーム 製品CFPの算定・表示ルール集」; 経済産業省「ライフサイクルアセスメント/カーボンフットプリント」

# ルールの項目ごとに議論必要性を分類し、草案の作成を行う

## 実施事項

### 案作成

### 議論必要性の分類

ルールの項目ごとに議論必要性を低/高に分類する

- 項目に書くべき内容を決めやすいものは、**低**とする
- 項目に書くべき内容が、すぐに決まらず議論を要するものは、**高**とする



### ルール案の作成

議論性に応じて、草案を作成する

- 低**の項目は、既存ルールを踏襲した案を作成する
- 高**の項目は、既存ルールを参考に、オプションや方向性を提示して議論する。議論結果を踏まえて草案を作成し、ブラッシュアップする

### ルール項目の例

① 総則	1-1 CFPの目的
	1-2 適用範囲
	1-3 参照ガイドライン・規格・ルール
	1-4 対象とするGHG
② 算定対象	2-1 算定対象の粒度
	2-2 算定単位
	2-3 製品の構成要素
	2-4 ライフサイクルステージ
	2-5 対象プロセス
	2-6 カットオフ基準・対象
③ データ収集	3-1 1次データの収集・要求品質
	3-2 2次データの収集・要求品質
④ 算定方法	4-1 配分ルール
	4-2 シナリオ
⑤ 個別事項	5-1 バイオマス由来炭素
	5-2 再エネ証書の扱い
⋮	⋮

### 議論必要性の例

#### 議論性低

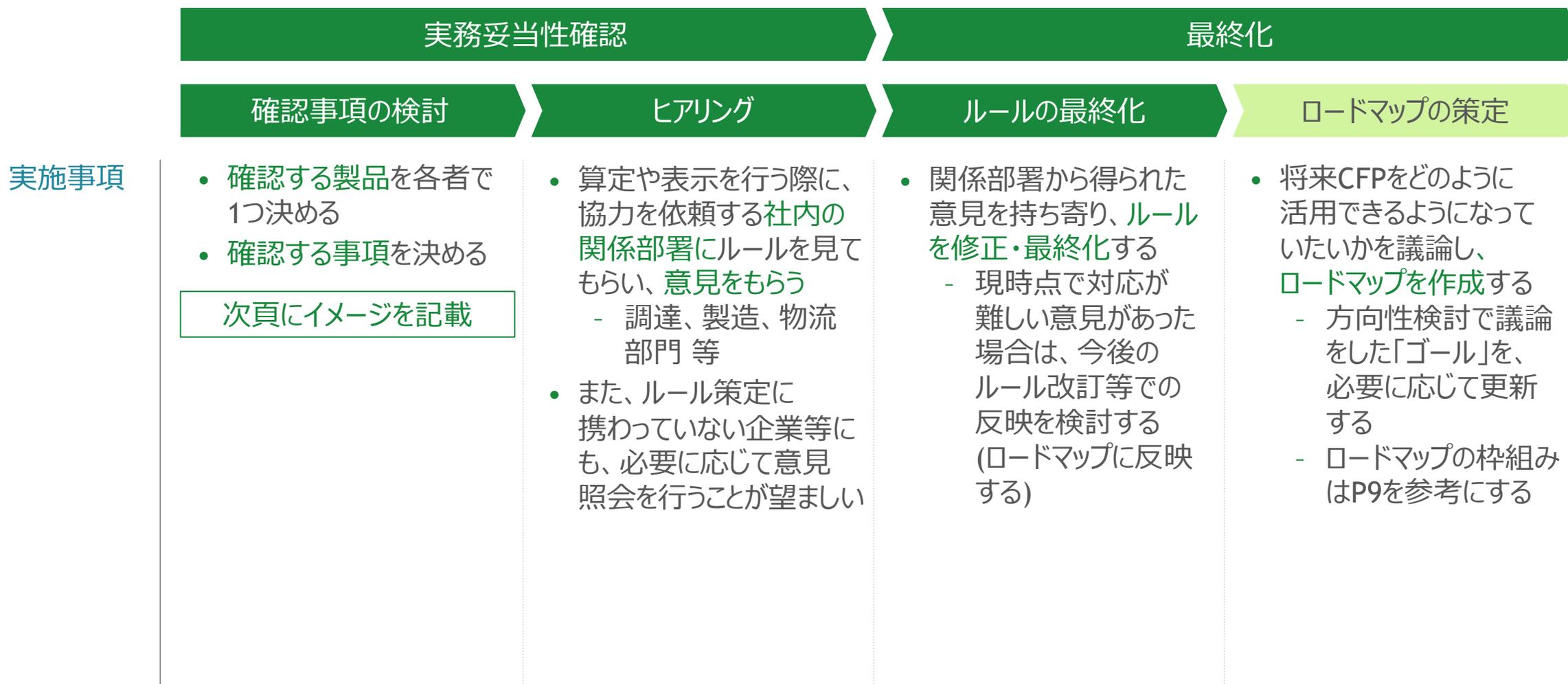
CFPガイドライン  
(経済産業省・環境省)  
ISO140067:2018を参照  
することが多い

#### 議論性高

国際的に複数の考え方  
があり、議論を要すること  
が多い

# 実務妥当性確認<sup>1</sup>を行い、その結果を踏まえてルールを最終化する

■ 必須 ■ 任意



1. 環境省のモデル事業では「実証」と呼んでいたが、実際に算定・表示をすることを目的としているわけではないため、呼称を変更

## (参考) 実務妥当性確認の例

## 確認事項の検討

## ① 対象製品を決める

対象製品	
組織名	製品名
XX	XX

## ② 確認する事項を決める

## 確認事項 (例)

	項目	確認内容
算定 ルール	データ 収集 方針	ルールに沿って データ収集が できそうか
	シナリオ	シナリオが現実 と明らかに乖離 していないか
表示 ルール	詳細 情報の 表示	表示場所が 適切か
	共通 ラベル	共通ラベルは わかりやすいか

## ヒアリング

## ③ 全体でヒアリングの結果や気づきを共有する

## 結果・気づき (例)

サプライヤーへのデータ提供  
依頼方法が載っていると  
良いのではないか

複数シナリオの記載があり、  
自社製品の算定を想定した  
ときに、使い分けが難しい

製品スペースの都合上、詳  
細情報をCFPと共に載せられ  
ない場合があるのではないか

分かりやすいデザインとなっ  
ている

## ルールの最終化

## ④ ルールの修正・最終化方針を議論する

## 最終化方針 (例)

データ提供依頼時に説明  
すべき事項やデータ依頼用の  
テンプレートを記載する

どのようなときにどのシナリオを  
選択するかを補足を入れる

製品に十分なスペースがない  
場合にはウェブサイト掲載する  
ことも認める

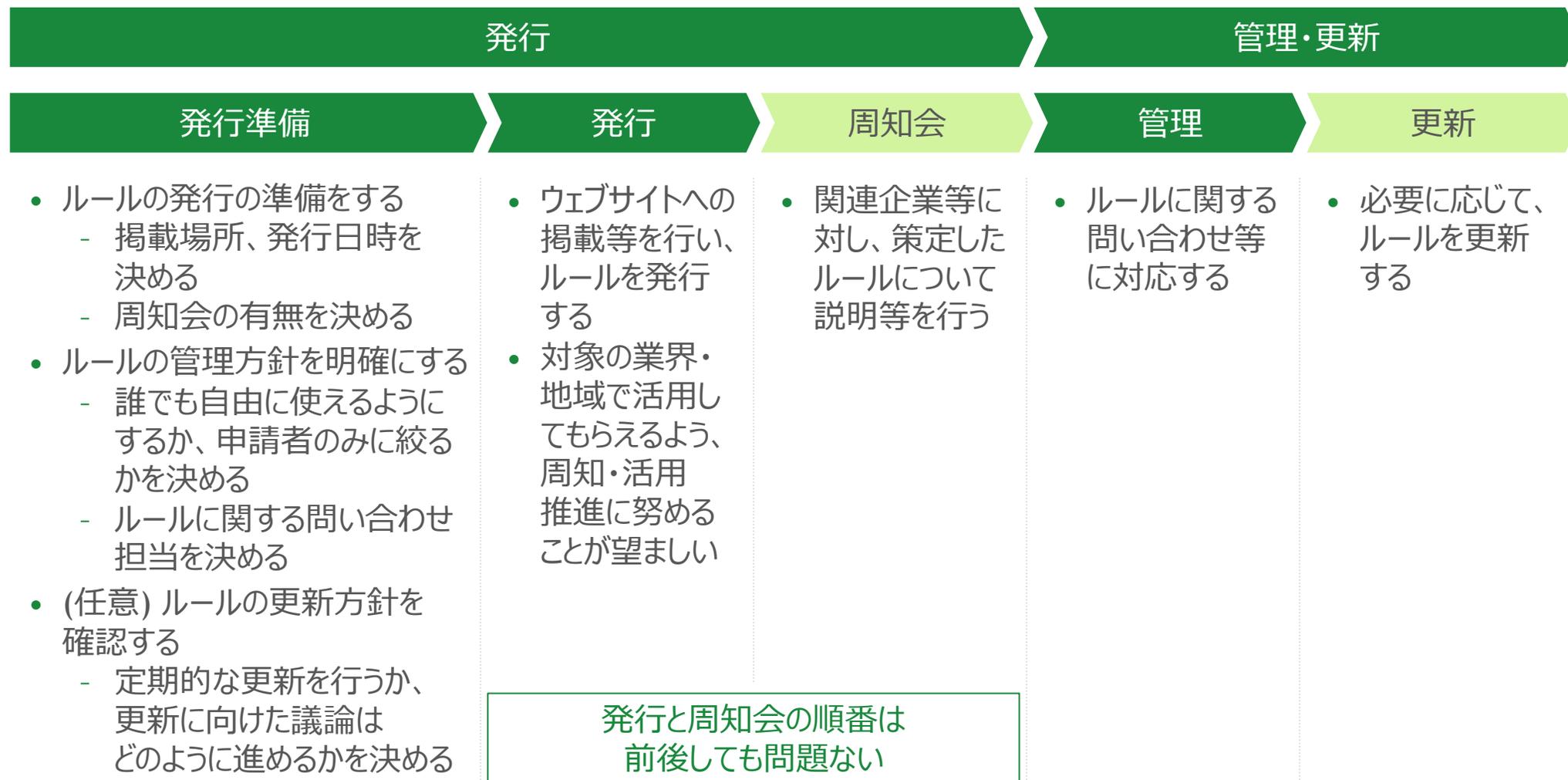
変更なし

## (参考) 業界・地域が目指すロードマップの例

	本年	2~3年後	5年後
ゴール 	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルールを発行し、各者がルールに則って1製品以上で算定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルール策定メンバー企業等は10製品以上で算定表示をしている</li> <li>ルール策定メンバー企業等以外も算定表示に取り組んでいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通ラベルが消費者に広く認知されており、購買の判断材料の一つとなっている</li> </ul>
算定ルール 	<ul style="list-style-type: none"> <li>初版のルールを作成・発行する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各者での算定を踏まえて、補足等を入れてルールをより使いやすいものに更新する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CFPに関する国内外の一般的なルールが更新されたら、それに整合をあわせて更新する</li> </ul>
表示ルール 		<ul style="list-style-type: none"> <li>作成した共通ラベルを踏まえた表示ルールに更新する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者等の声を踏まえて、より分かりやすいラベルや表示となるようにルールを更新する</li> </ul>
その他の取組事項 	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通ラベルをつくる</li> <li>算定例を集めた事例集を作成する</li> <li>策定ルールを活用して、算定表示を行うワークショップを実施する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1次データ活用を推進できるよう、取引先とのデータ共有用のフォーマットを作成する</li> </ul>

# ルールの公表に加えて、公表後の管理や更新の方針についても予め議論を行い決めておく

■ 必須 ■ 任意



# 共通ルール策定後も継続的に取組を推進していく

## 共通ルールの策定後の取組

- 策定したルールを活用してCFPの算定・表示に取り組む企業等が着実に増えていくよう、複数の組織が協働して取組を推進していくことが重要です
- ルールの策定に参画した企業等は、算定や表示について取り組んだことがない企業等へアドバイス等を行い、ルールの実効的な活用をサポートしていくことが望ましいです
- また、策定したルールに対するフィードバック等が寄せられた場合には、意見を適切に反映し、より使いやすく実務に即したルールへと更新していきましょう
  - 問い合わせを踏まえたQ&A集の作成や、ルールの解説書を整備してもよいでしょう

### 発行

#### (1) 本資料作成体制 担当省庁

- 環境省 地球環境局  
地球温暖化対策課  
脱炭素ビジネス推進室

### 事務局

- ポストン・コンサルティング・グループ合同会社

#### (2) 発行日

- 2026年2月